

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272300144		
法人名	有限会社長寿松		
事業所名	グループホームあんしん勝浦		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	平成27年 4 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成27年 4 月 11 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境の中で【自立した日常生活に温もりある暮らし】を提供させていただき、職員の笑顔と優しい会話に努めています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念の共有と実践について職員は、利用者が安心安全かついきいきとした生活ができるよう質の高い介護サービスの提供を目指し、おもてなしの心を持ち、意欲的に日々のサービスに取り組んでいる。 また馴染みの人や場との関係継続の支援については、家族や友人、知人の来訪、家族と同伴の食事、年賀状のあて名書きなど個別の関係に配慮した支援を行っている。現在外出を伴う支援も検討中である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの運営理念を玄関に掲示し、職員に理念の実践に向け、取り組んでいる。	職員は、利用者が安心安全かついきいきとした生活ができるよう質の高い介護サービスの提供を目指し、おもてなしの心を持ち、臨機応変かつ意欲的に日々のサービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し日が浅いため、祭典に参加、これから地域の交流に努めてゆく。	昨年市街から田園地域に移転し、日をおかずに自治会への加入を申し入れ、了承を得ている。近隣との交流は緒に就いたばかりであるが、自治会長など地域の役員が来所し、運営推進会議の打合せ等が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	話し合っているが、現在まで実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、介護課職員、家族等に参加を呼び掛け、早めに実施計画中。	当地域へ移転後運営推進会議は開催されていないが、5月中の開催を目指して、市職員、自治会長、民生委員、家族、地域包括支援C等へ打診し、日程を調整中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員とは、業務の相談、研修紹介等、連携を図っている。	介護保険課には利用者の入れ替わり時の手続きや管理者研修の受講時及び利用者の紹介時に出向いている。また福祉課には洋服や介護用品の受取に出向き、夫々情報等を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する参考資料を用いて職員会議で議題にし、共通理解に努めている。	利用者は入居後1ヶ月ほどは帰宅願望が強いいため、職員は利用者が不穏な状況にないかを見守り、外に出る人には職員が寄り添っている。また言葉による拘束についても日々のミーティングで管理者が注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	参考資料、申し送り等で議題にし、共通理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、利用者、家族の不安や質問を十分な説明をし、理解と納得を		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の相談には勝浦市介護課、内部の相談には管理者が窓口になり、家族が気軽に話しかけやすく取組み	来所する家族からはベッドの位置を変えて欲しい、おやつを食べさせて欲しい、トイレがあればなし等ストレートな意見や要望があり、事業所は安全に配慮しながら可能な限り意見をサービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	玄関に意見箱を設置している。 ミーティングで意見や提案を聞き、職員の意向、意見、希望に添うよう努めている。	職員からは日常のサービス提供の場や業務の合間に食事の量や質について等の相談及び意見・提案がある。管理者はそれらを共有した上で、職員の教育を考慮しつつそれらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が長く働いてもらうよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を目指し、研修に積極的に参加できるよう促す。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣り(上植野)グループホームの良いところ意見交換等をしたりで、質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護度にもよるが、本人の訴え、困っていること等、要望は聞いているが、手のかかる利用者中心になって今う状態もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時、本人・家族のに一つを見極めて支援できるよう心掛け、他のサービス利用のあることを伝える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	築けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けている。誕生会、行事等、家族に連絡する。写真と近況報告の手紙を送る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係、ほぼ築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ている。	家族の来訪や家族と同伴の食事、利用者と同宗教の人や知人の来訪等に伴う支援や年賀状のあて名書き、電話の取り次ぎの支援など個別の関係に配慮した支援を行っている。現在外出を伴う支援も検討中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間同士で話したり、歌ったりして関わり合い、支え合える支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	断ち切らないよう、きがるにたちよってくれるよう、努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意見を参考に検討し、把握に努めている。	入居前の見学の段階から家族、本人の意向の把握に努めているが、今のままの健康を維持してほしいという希望や事業所に判断を任せられる傾向が強いことなどに配慮し、寄り添い、時間をかけて個々の意向を引出し、ケアマネや職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし、生活趣味、生い立ちをフェースシート、アセスメント表に記入し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ同席でカンファレンスを実施、家族の要望、希望、職員の意見などを活用し、計画を立てている。	ケアマネは、カンファレンス時に日々の職員の報告をまとめた情報を管理者から聞くとともに、日常の事業所訪問で得たモニタリング評価表の結果等の情報と合わせ、介護計画を作成している。計画は家族に送り、状況報告も月に4回行っている。	利用者調査の結果で見ると説明は受けたが話し合っていない、説明も話し合いも無いという回答が多くありました。今後、ご家族と直接話し合う機会を設けることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自のケース記録に記入、日々の様子などを参考に介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の支援、家族との外食、お墓参り等の支援。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	良い関係を保ちながら支援している。急変時の健康診断にも、対応してくれている。	かかりつけ医の定期往診はなく、月1回通院介助を行い、特定の科の受診希望には月2回の対応をしている。また診察に立ち会い主治医と情報交換を行っている。家族への報告は都度電話で行うなど全員で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡者が看護師で急変時の支持をしてくれる。週一回。非常勤の看護師週一回健康管理。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その人らしい最期を迎えられるよう、家族、看護師、職員で取り組みを整えていきたい。	看取りに関しては体制が十分に整っていない為、終末期に近づく看護士でもある代表者に相談し、協力医の判断を仰ぎながら、入院等への対応を行っている。施設で出来る範囲は、事前に十分な説明を行い、出来る限り、家族の意向に添えるよう意図している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習は各自で取り組んではいるが、早期に消防署に申込み中。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	移転後、早期計画。	移転したばかりで、計画を立案中であるが、5月には隣接する事業所と一緒に避難訓練を予定している。又、設備点検は年三回実施することで業者と契約し、非常食も冷凍食品やペットボトルの水等、備蓄を行っている。	自治会に加入されていることで、自主消防団等の協力を得ることも視野におき、日常の近所付き合いを徐々に深めていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をさせていただきます、の意識で対応支援している。	常に利用者の尊厳を大切にすることを心掛けているが、親しみを持って接することも大事なので、長い利用者には「ちゃん」付で呼ぶこともある。失禁時等はそっと部屋に誘導し介助する等、プライバシーにも配慮が窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知度により異なる場合もあるが、本人の意思や希望を表せる方は納得して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日程のようなものがあるが、一人一人のペース、希望の添うようにはしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容店がホームに、服装は季節のものを家族が持ってきてくださる。本人希望で、職員と買いに出る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職に手伝いのできる利用者は進んで参加して、一緒に行っている。	利用者に出る範囲で配膳や片付け等を手伝って貰い、元調理師の人には味付けをお願いしている。周りに店舗も少ない為、外食は行わず、正月や誕生会などには事業所内でのケーキ作りや飾りつけを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分量を個別に記録、食単位を取り入れ、バランスよくを努め、月初めに体重測定を実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで歯磨きをできない人は、一部介助、月1回の訪問歯科の受診で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して時間で誘導し、おむつの利用者がいなくなった。パッドの使用も枚数が減っている。	自立の難しい利用者は、職員が誘導し必ず経過、結果を記録している。基本的にオムツは使用せず、リハパン、パッドを昼夜で使い分けている。失禁時は本人が傷つかないように部屋に誘導し、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容、食物繊維、乳製品にて水分摂取に気を付け、ラジオ体操、屈伸運動を一部に実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、シャワー浴、清拭など、本人の希望を取り入れ、拒否の人には声掛けタイミングを努めている。	週3回(月・水・金)の午後利用で、入浴前には必ずバイタルチェックを怠らない。入浴が嫌いな人は無理強いせず工夫して対応し、洗髪が出来ない人には介助を行っている。入浴の無いときは夜勤者が朝に清拭を行う。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度設定、湯たんぽは全員、加湿に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月のラジオ体操、誕生会の実施、行事の参加(クリスマス、豆まき等)。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ散歩、ドライブ、既卒ごとの催し参加。上植野に移転してからできていない。土地に慣れてきたようで、利用者も少し落ち着いて見えるので、実施に努めていく。	事業所の前の道路には街灯も無く、日中は車の通行が多く危ない為、敷地内の散歩のみとしている。庭には鶏小屋があり、それを見に行くのが日課となっている。また夫々の家族には可能な範囲で外出への協力を頂いている。	「外出は困難」と決めつけず、利用者本人が戸外で気持ちよく過ごせる支援が重要です。少しでもそのような機会を増やせることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時は金銭的な不安を訴え、財布を持つ方、現在は家族の協力もあり理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状が欠ける利用者7名は毎年実施。電話を掛けられる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。	日中は殆どリビングで過ごすことが多い為、ソファや畳スペース等を配置して、居心地の良い場所を提供出来る様に工夫している。ゲームや囲碁、将棋、テレビ等で、楽しんで過ごせるよう、配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの空間、共用スペースとして段差をなくした。安全面好みの居場所として好みを工夫。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを自由に持ち込み、利用者が安心して過ごせるように配慮され、エアコン設置され、職員により空調管理されている。	居室は全て畳部屋であり、ベッド、タンス、写真の飾り等馴染みのものを自由に持ち込むことが出来る。冬は炬燵の設置もOKで、自分の時間と空間を楽しむ場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、解らないことは各自で行い、そっと見守り、本人らしく自信を以て生活してほしい工夫をしている。		